

2018年度 国際開発入門コース 研修スケジュール

	日時	時間数	テーマ	講師
1	10:00～12:00	2	オリエンテーション（コース概要説明、参加者自己紹介、参加者の問題意識、講師への質問、コースへの期待等を取りまとめる）	FASID
2	10月27日（土） 13:00～15:30	2.5	国際開発協力の歴史、日本政府・主要ドナーの開発援助と国際相互依存関係	大野 泉 氏（独立行政法人国際協力機構（JICA）研究所 所長、政策研究大学大学院/GRIPS 客員教授） 国際協力事業団（現在のJICA）、世界銀行、国際協力銀行（JBIC）を経て、2002年より現職。過去に外務省「ODA大綱の見直しに関する有識者懇談会」委員、「国際協力に関する有識者会議」委員、経済産業省「BOPビジネス支援センター」運営協議会座長等。近著に『町工場からアジアのグローバル企業へ：中小企業の海外進出戦略と支援策』（編著）、中央経済社、2015年。
3	15:45～18:45	3	国際開発の変遷、住民参加型開発、開発援助を評価する	田中 博 氏（一般社団法人参加型評価センター 代表理事） 一般社団法人参加型評価センター代表理事。認定NPO法人ヒマラヤ保全協会元事務局長。NPO法人開発教育協会評議員。日本評価学会認定資格評価士。現在は、参加型評価のファシリテーターとしてJICAやJANIC等の研修講師、NGO海外プロジェクトや、国内でも震災復興事業などの評価ファシリテーターを行う。
4	10:00～12:30	2.5	共に学ぶ場としての国際協力～NGOで働くことは～	三宅 隆史 氏（公益社団法人 シェンティ国際ボランティア会/SVA ネパール事務所 所長） 1994年、SVAに入職。海外事業課長、ミャンマー（ヒルマ）難民支援事業事務所、企画調査室長、事務局次長、アフガニスタン事務所長、タイ事務所アドバイザーなどを経て、2017年より現職に至る。教育協力NGO ネットワーク（JNNE）事務局次長、開発教育協会理事も務める。近著に、「途上国世界の教育と開発—公正な世界を求めて」（共同執筆、2017）、「SDGsと開発教育：持続可能な開発目標のための学び」（共編著、2016）等。
5	11月10日（土） 13:30～16:00	2.5	教育の国際協力、インクルーシブ教育	黒田 一雄 氏（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授） アジア経済研究所開発スクール修了後、スタンフォード大学にて国際教育開発、コーネル大学にて教育・開発社会学を専攻、Ph.D.取得。米国海外開発評議会研究員や世界銀行を経て、広島大学教育開発国際協力研究センターで講師、助教として勤務した後、現職に至る。近著に、「アジアの高等教育ガバナンス」（編著、2013年）、「国際教育開発論—理論と実践」（編著、2005年）等。
6	16:15～18:45	2.5	農村開発とジェンダー～ジェンダー主流化が目指すこと～	田中 由美子 氏（城西国際大学国際人文学部 招聘教授） 国連工業開発機関（UNIDO）、国連アジア太平洋経済社会委員会（UN-ESCAP）、国際協力機構（JICA）国際協力専門員、評価監理室長、社会開発協力部長などを経て、2017年より現職。2018年から国連女性の地位委員会日本代表に就任。さらに、男女共同参画と災害・復興ネットワーク副代表、国連ウィメン日本協会理事、世界銀行We-Fiアドバイザーなども務める。近著に、『近代化』は女性の地位をどう変えたか—タンザニア農村のジェンダーと土地権をめぐる変遷』（新評論、2016年）（2017年度FASID大賞受賞）、『はじめてのジェンダーと開発—現場の実体験から』（共編著、新水社、2017年）、等。東京大学国際協力学博士。
7	10:00～12:30	2.5	アフリカからグローバルイシューを考える	佐藤 章 氏（アジア経済研究所地域研究センター 主任調査研究員） 1993年にアジア経済研究所に入所以降、一貫してアフリカ研究に取り組む。近著に、「コア共和国の近代：コートジボワールの結社と統合的革新」（2015年）、「和解過程下の国家と政治：アフリカ・中東の事例から」（編著、2013年）、「新興民主主義国における政党の動態と変容」（編著、2010年）等。
8	11月17日（土） 13:30～16:00	2.5	UNシステム、及び国連機関による平和政策（平和維持、平和構築、人間の安全保障等の概念と政策）	勝間 靖 氏（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授、国立国際医療研究センター・グローバルヘルス政策研究所・グローバルヘルス外交ガバナンス研究科 所長） 一般社団法人海外コンサルティング企業協会に研究員として勤務後、ボリビアでのマイクロファイナンスに関するフィールドワークをもとに、ウィスコンシン大学マディソン校でPh.D.取得。その後、国連児童基金（ユニセフ）に入り、メキシコ、アフガニスタン、パキスタン、東京の事務所での勤務を経て、現職に至る。近著に、「持続可能な地球社会をめざして～わたしのSDGsへの取り組み」（編著、2018年）、「テキスト国際開発論～貧困をなくすミレニウム開発目標へのアプローチ」（編著、2012年）、「国際社会を学ぶ」（共編著、2012年）、「アジアの人権ガバナンス」（編著、2011年）等。
9	16:15～18:45	2.5	持続可能な開発のための2030アジェンダ、JICAによる国際協力、SDGsへの取り組み	岡崎 有香 氏（独立行政法人国際協力機構/JICA 企画部SDGs推進班） 青年海外協力隊（EIS対策）としてマダガスカルに派遣。イギリス開発学研究所（IDS）ジェンダーと開発修士号取得。2014年よりJICA（国際協力機構）で勤務。中国地方における国際協力市民参加協力事業担当した後、現在は、JICA企画部に、持続可能な開発目標（SDGs）推進業務を担当。
10	11月24日（土） 10:00～12:30	2.5	気候変動の影響、緩和策と適応策	山岸 尚之 氏（WWFジャパン 気候変動・エネルギーグループ長） 2003年からWWFジャパンの気候変動担当オフィサーとして政策提言・キャンペーン活動に携わるほか、国連会議での情報収集・ロビー活動などを担当し、現在に至る。
11	13:30～16:00	2.5	水問題と国際開発協力による課題解決の取り組み～開発コンサルタントの観点から～	宮内 龍太郎 氏（日本テック株式会社 水資源・環境部部長） 1990年に入社、テクニカルグループ次長を経て現所属に至る。入社以来、世界各地で途上国の給水事業、地下水開発のプロジェクトに関わる。地下水が専門、中南米、アフリカ、西アジアの地方給水プロジェクトに従事、最近ではルワンダ国第三次地方給水計画に業務主任として従事。
★	16:15～18:00		懇親会（参加任意）	FASID
12	10:00～12:30	2.5	民間企業による国際協力	増田 明子 氏（千葉商科大学 准教授） 1996年～2002年まで住友商事株式会社勤務。2003年からイタリアに留学し、Master in Retail Management を修了。2005年に株式会社良品計画に入社し、2014年までMUJIの商品開発に携わる。2014年から現職。近著に「MUJI 式世界で愛されるマーケティング」（2016年）、「ゲーム・チェンジャーの競争戦略」（共著、2015年）等。
13	12月1日（土） 13:30～16:30	3	緊急人道支援における援助の質とアカウントビリティ向上～人道支援の必須基準（CHS）とスフィアプロジェクト～	五十嵐 豪 氏（特定非営利活動法人 難民を助ける会（AAR Japan） プログラムマネージャー、人道・開発支援における質と説明責任（Quality & Accountability: Q&A） トレーナー） 2009年より現職。数多くの海外・国内の緊急人道支援の現場に出勤したほか、現在は人道支援に携わる人材育成のための研修講師やモジュール開発にも携わっている。人道支援における質と説明責任（スフィアやCHSなどの国際基準）をはじめ、WHO版心理的応急処置など人道支援に関わる研修のトレーナー資格を有する。 松本 幸子 氏（一般財団法人国際開発機構/FASID 人材開発事業部次長代理・コンサルタント、人道・開発支援における質と説明責任（Quality & Accountability: Q&A） トレーナー） 青年海外協力隊として、コスタリカ現地NGOが運営する家庭内暴力被害者支援センターでプロジェクトコーディネーターに従事。2008年よりFASIDにて、人材育成研修事業、JICA技術協力プロジェクトや評価・研究調査等に携わる。
14	16:45～18:15	1.5	まとめ（コース振り返り、各自の今後の活動の共有等）、修了証書授与式	FASID